

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000520		
法人名	法人種別: 医療法人	法人名: 医療法人社団北星会	
事業所名	医療法人社団北星会 グループホーム ふぁみりあ		
所在地	北海道北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル3F・4F・5F		
自己評価作成日	平成26年6月3日	評価結果市町村受理日	平成26年7月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action\\_kouhvu\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0175000520](http://index.php?action_kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000520)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、ゆったり、ゆるやかにの運営理念に沿えるよう日勤4名夜勤2名態勢とし、外出やレクリエーションでの刺激により認知症の悪化が出来る限り抑えられるよう努力している。  
 ・入居者の希望により、外出(花見、外食、観光、映画、美容室、買い物)をしている。  
 ・入居者の誕生日には誕生会を開催しお祝いしている。  
 ・昼食時、一般家庭と同様に入居者スタッフ全員でカップ麺を食べることもある。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年7月15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内中心部にあり、JR北見駅から徒歩5分のグループホームふぁみりあは、ホテル内の3階から5階の3ユニットで構成されています。利便性が高いため家族の訪問も多く、職員は意見や要望を話しやすい環境作りに努めています。地域は商店街・病院・ホテル等が建ち並び、日頃から買い物やおまつりへ歩いて出かけ交流を深めています。外出支援に力を入れ、利用者と職員でオシャレをしてホーム所有の車両で遠出のドライブをしたり、今まで訪れたことのない歴史館・物産展・近郊のホテルランチバイキング等、新鮮な気分を堪能しています。月に2回、認定音楽療法士による音楽療法を行っており、輪唱や楽器演奏をすることで心身の活性化につながっています。職員は、「ゆったり ゆったり ゆるやかに」の理念を大切に、利用者の残存機能を生かせるよう時間をかけ見守っています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理念をもとに従事できるよう努力している	開設時からの「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」の理念に沿って日々のケアに取り組んでいます。玄関前に利用者が習字で書いた理念が掲示され、月1回の職員ミーティングの中でも振り返りの場としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会合や催し物に参加している。町内の方を見かけた時には挨拶している。	町内会へ加入し、年1回の総会には職員が出席しています。毎日利用者と買い物に行くため、商店街の人たちと顔馴染みになっています。地域のお祭りにも積極的に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふぁみりあ通信を毎月回覧版で回している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見やアイデアは実践に繋げられるよう検討し向上出来るようにしている	入居者・家族・看護師・市職員・地域包括支援センター職員が参加し意見や要望を受けています。町内会には、案内を届けに行ったり、家族へ郵送でお知らせしていますが年3回の開催となっています。	町内会は商店街が多いため、日程の調整が困難ですが、曜日や時間帯等を考慮して2ヶ月に1回、定期的に開催できるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ふぁみりあ通信を介護福祉課に置き誰でも観覧できるようにしている。管理者が窓口になり担当者と情報の交換をしている	介護福祉課へ毎月発行の通信を利用者と職員と一緒に届けています。日頃から対面することでお互い顔を覚えられる関係になっています。徒歩圏内なので頻繁に足を運び情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、入居者が外に出たい時にはいつでも出れるようにしている	毎月の内部研修や年2回の虐待防止研修で共有認識を図り、身体拘束をしないケアを実践しています。施錠は夜間のみとし、同ビルのフロントとも連携しながら安全面に配慮した自由な暮らしを支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待についての研修を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を促している。必要性に応じて制度利用時の説明、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全て読み上げ説明を行っている。利用者や家族の不安や疑問に傾聴し理解、納得を図れるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談等の連絡先を玄関に貼っている。また、日頃から話を切り出しやすい環境作り心がけている。	家族と対面することを大切にし、話しやすい雰囲気作りを心がけ意見や要望を聞いています。家族の訪問頻度は高く、気兼ねなく話せる関係を継続しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングは全スタッフが参加し意見交換を行っている。普段からも相談事や提案等聞く時間を作り運営に反映している。	月1回、各ユニットのミーティングで意見・提案を聞いています。ボーナス受け渡し時に個別面談を行い、日頃からコミュニケーションを図って聞き出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートからパート社員、準社員、正社員への昇格がある。勤務年数や資格により昇給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に積極的に参加し会議の中で報告し共有を図っている。内部研修を開催し職員の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会オホーツクブロックに加入し勉強会や研修会に参加して他GHと交流を図り情報交換をしながらサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人の不安、要望等に傾聴しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時に今後のことや不安、心配事などを聞きながら、時間をかけてはなしあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に見学に来て頂き、コミュニケーションを図りながら必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に掃除や買い物、料理や洗濯と全てを共にし支え合うよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の外出や食事会等の行事に家族にも参加して頂き、普段の会話も大切に、共に本人を支えて行く関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方が来られた時はスタッフも会話に参加し、次回も気軽に来ていただけるよう心掛けている	以前通っていた洋品店・菓子店・スーパーへ出かけています。友人の来訪もあり、職員も間に入って和やかな雰囲気作りをしています。また、職員とパークゴルフへ行ったり、人形作りや絵を描くなど本人の趣味を支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の準備等利用者の皆さんと行き、関わりを増やし孤独なく支え合える様な支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族と出会った際には近況を聞き必要に応じた取組みに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング等で情報を共有し、本人や家族の立場で検討している	常に声掛けをしながら、自己決定が出来るような問い方を意識しています。困難な場合は、表情や行動から把握に努めています。残存機能が生かせるよう、本人が出来ることはゆっくり時間をかけ、見守るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力のもと、センター方式を作成し変化があった際は、その都度記入している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員や関係者間で個人日誌に実際の言動記入や申し送り等で常に状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を考慮し現状に即した計画を関係者が話し合い確認しながら作成し、モニタリングを月に1回行っている	職員が担当者制で作成しています。見直しは半年に一度行い、月1回モニタリングをしています。家族の意見を取り入れる為、来訪時をカンファレンスに充てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りや個人日誌の記入やケアプラン、モニタリング、センター方式、ひもときシート等情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院の際、病院にも出来るだけ多くのスタッフが顔を出すようにしている。洗濯物等対応もしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、訪問美容、カラオケショー等の有効活用しながら豊かな暮らしを楽しめる様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診医は本人や家族の希望により決めてもらい、必要に応じて連絡を取っている	本人・家族が希望するかかりつけ医のもとで受診しています。同医療法人の病院が隣りにある為、緊急時の対応も早く、家族の安心へ繋がっています。週1回の訪問看護で日々の体調管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師、看護職員が来ている。状況報告や変化があった時などアドバイスをもらい適切な受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェイスシートを提出し病院関係者との情報交換、相談に努めている。退院時は文章や口頭で注意事項等の説明を受けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族には早い段階で希望を聞き、かかりつけ医とも話し合いチームで支援に取り組んでいる	年1回、内部で看取り研修を行っています。現在も看取りを行っており、職員は常に家族の意向を最優先し希望に沿って対応しています。また、医療機関とも連絡を取り合い、連携を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用意している。スタッフ全員が救命講習を受講し熟知し身につけるよう努力している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災安全対策研修に参加し全スタッフに報告している。消防計画を作成し年2回消防訓練を行っている	ユニットごとに夜間想定火災訓練を年2回実施しています。各階に避難階段が2ヶ所あり、消火栓ホースも設置しています。災害時は、同医療法人の病院や町内のホテルから備蓄品を提供してもらう等協力体制が出来ています。	地震・水害・ガス漏れ等、あらゆる災害を想定した避難訓練を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには、耳元等他者に聞こえないように配慮している。領収書、郵便物等個人の物品保管にはイニシャルで表示している	脱衣場や書類の棚には、生地カバーをしてプライバシーに配慮しています。個人の領収書を保管する壁掛け収納にはイニシャルで表し、特定できないよう工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれに合った声掛けに工夫し自己決定が出来るよう質問型や選択型での対応に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせ希望に添った支援が出来るようその都度、本人に聞いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き取り入れている。外出や気温に合わせた服をスタッフと一緒に選んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や盛り付け配膳等それぞれに出来る事を行っている	利用者と職員と一緒に食材の買い物へ行き、同じテーブルを囲み団らんしています。ユニット別に手作りメニューを提供し、同医療法人の栄養士から栄養バランスのチェックもあり、日頃から味や見た目も趣向を凝らしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に応じた品を提供している。水分、食事表を利用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助を行っている。口臭の原因となっている虫歯や義歯の調整も含め歯科受診の検討も行っている。歯科受診時には医師や衛生士に歯磨き指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に声かけ誘導を行っている	可能な限り、トイレでの排泄が出来るよう排泄チェック表を基本に声掛けしています。本人の残存機能を活かしながらプライドを傷つけないよう、さり気ない誘導を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、乳製品の摂取等で対応している。又外出、散歩も促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体の状態や入浴希望等に対応しながら支援を行っている	希望に応じて、毎日でも入浴が出来るよう支援しています。年に1回、市内の温泉や足湯へ出かけ気分転換をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を自室で使用し安心して休養できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルで把握できるようにしている又、申し送りでの伝達も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の力を活かした役割や遊び事を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて遠方へ外出を行っている。買い物散歩等声かけにより支援している	外出支援に力を入れ、希望を聞いておまつり・芝桜公園・空港・デパートの物産展・ランチバイキング等、各ユニットがアイデアを出し合い様々な所へ出かけています。毎日、日光表を付け、出来るだけ外に出るよう工夫しています。ホーム所有の車両2台で遠出のドライブも楽しみとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時お金を使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも掛けれるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には四季が解るよう、季節ものを飾ったり外出時の写真を貼ったり工夫している	白を基調とした居間に、木目調の柱やクローゼットが温もりある空間を作り出しています。アイランド型キッチンから全体がすっきり見渡せ、周りは利用者作成の貼り絵・外出先の思い出写真・ペットボトルを使用した手作り風鈴でオリジナル性に富んでいます。ソファーに座って新聞や録画したテレビを見たり、ペットの小動物のお世話をしたり、自由に生き生き過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子等好きな場所に座れるようにしている。キッチン横に一人になれる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を居室に置き、居心地良く暮らせるよう工夫している	仏壇・タンス・ソファー・ベッド等使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいます。観葉植物や人形を置いたり、壁に孫の写真や好きな演歌歌手のポスターを飾って個性が出ています。ビルの3階から5階に入居しているため、窓は開閉の安全対策にも努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の状況に応じた工夫で安全で自立した生活が送れるようにしている。		